



苦道建第 63号  
平成19年4月25日

国土交通省道路局長 様

苦小牧市長 岩倉 博文  
(都市建設部道路建設課担当)



道路事業の中期的計画の作成にあたっての意見の提出について(回答)

このことについて、別紙のとおり、意見書を提出いたしますのでよろしくお取り計らい願います。

## 道路整備の中期的計画の作成にあたっての意見書

### ○重点化を進める上で、特に優先度の高い道路政策

1. 特定重要港湾の苫小牧港は、主要な国際コンテナ航路を有するなど、国内の中核国際港湾として位置付けられており、北海道の物流拠点としても重要な役割を果たしている。

苫小牧東部地域における工業製品と優れた地理的条件を背景にした背後圏への流通貨物の増大が相まって、年々貨物取扱量が増えており、道内の港湾貨物の4割以上を取り扱っている。

苫小牧港は、札幌など道央圏はもとより、旭川圏、道東圏、オホーツク圏など、全道的に利用されており、これら空港や港湾とのアクセス強化による時間短縮を図ることが、輸送コストの縮減に繋がることから、高規格幹線道路をはじめ、国道・道道など、生産拠点とを結ぶ道路整備及び道路ネットワークが不可欠である。

2. 苫小牧市中心部には、東胆振二次医療圏における地域センター病院として5院が開業している。平成18年10月、道央道の近傍へ移転した苫小牧市立病院は、東胆振、西日高地区の25万人を対象とした中核病院で、これら周辺地域からの依存度は年々高まってきており、広域緊急医療における地域貢献を図るため、既存ストックを有効活用した追加ICの整備が必要である。

3. 近年価値観の多様化等を背景にゆとりと豊かさが求められる時代を迎え、安全で快適な通行空間の確保、都市災害の防止、情報通信のネットワークの信頼性の向上、都市景観の向上などの観点から、中心市街地において、平成3年度から道道、市道の電線類地中化に着手し現在、8.4Km整備を進めている。

今後も、道路防災機能の向上及び沿線の道路景観の向上による快適な生活基盤環境の確保が必要である。

4. 苫小牧市の地勢は、東西に細長く、土地利用は、東地域に工業系、西地域に住居系となっていることから、東西間での相互交通が頻繁に行われ、朝夕のラッシュ時には、通過交通とも重なり中心部において慢性的な交通混雑が発生している。

これに対し、東西の幹線道路は、国道36号と道道苫小牧環状線の2路線に限られており、特に西地域の室蘭方面は、国道36号のみで、交通事故等による交通規制が行われると迂回道路もないことから渋滞が起こっている。このため渋滞の解消や交通事故減少を図るため、2車線区間や狭隘となっている跨線橋の拡幅等による対策の推進が必要である。

### ○効率化を徹底的に進める上で重要な事項

1. 平成18年10月に、道央自動車道の千歳IC～登別室蘭IC間において実施された、社会実験では、通常の約2倍の利用と国道36号の渋滞緩和などの効果が実証されたことから、料金値下げなどによる既存高速ネットワークを効率的に活用する観点からも、利用者の増加を図る必要がある。

2. 供用あるいは、完成年次を明確にした事業管理、国・北海道との連携・協働の強化及びコスト縮減への一層の努力が不可欠である。

○その他、道路施策や道路の整備・管理全般に関すること。

1. 地方自治体の財政事情は、税収の落ち込みや地方交付税の削減など非常に厳しい状況である。  
これらに対応するためには、徹底した行政改革の推進と事業の見直しが求められており、補助事業の自治体負担分へのさらなる国費の充当など、地域の発展のため安定した事業の財源を確保することが重要と考えている。
2. 道路整備や管理について、国民・市民のニーズを十分に配慮するために、地域住民などとの会話が大事である。

平成19年4月25日

苫小牧市長 岩倉博文